将来発生する震災に関するイメージの事前経験による差異

—平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震による揺れを経験した首都圏の大学生に関する検討—

清水 裕

(昭和女子大学人間社会学部)

キーワード: 震災イメージ, 楽観, 大学生

Effect of pre-experience on earthquake image of future

Yutaka SHIMIZU

(Showa Women's University)

Key Words: earthquake image, optimism, university students

目 的

首都圏では若年層の防災意識と防災行動を高めることが課題である(警視庁, 2006)。また、東日本大震災発生時に帰宅しなかった人の方が帰宅した人よりも将来の大震災発生時に「避難所へ避難する」と考えている人の割合が多く(警視庁, 2012)、東日本大震災時の経験が将来発生する震災のイメージに影響を与えている可能性が考えられる。本研究においては、首都圏在住の大学生を対象に、東日本大震災発生当日の経験の違いによる将来の震災に対するイメージの差異を検討する。

方 法

首都圏 3 大学の大学生 256 名を対象に、2013 年 11 月に留置き法(週週回収)による質問紙調査を実施した。

質問項目は、(1)東日本大震災発生当日の経験:「在宅の有無」、「自宅の停電の有無」、「帰宅の可否」、「家族・友人とのメールでの連絡の可否」、「家族・友人との電話での連絡の可否」、「家族・友人との SNS での連絡の可否」、「食料・飲み物の購入の有無」、「店舗での必要物の購入の可否」。(2)将来震度 6 強の地震が発生した場合のイメージ:「自分は怪我をしない」、「交通機関で 2 時間以上かかる場所で交通機関が止まっても徒歩帰宅する」、「配給の非常食は 3 日以内に避難所に到着する」、「配給の飲料水は 3 日以内に避難所に到着する」、「地震が起きたとき近くに自販機があれば飲み物を買える」、「地震が起きたとき近くにコンビニやスーパーがあれば食料を買える」、「コンビニやスーパーは翌日も営業している」、「鉄道は 2 日以内に復旧する」、「鉄道は 1 週間程度で復旧する」、「鉄道の復旧には 1 カ月以上かかる」、「停電しない」、「交通機関で 2 時間以上かかる場所で交通機関が止まった場合、避難所へ行く」、「避難者が避難所へ入りきれなくなる」、「ツイッターは使える」、「配給の非常食は 1 週間以内には避難所に到着しない」、「配給の飲料水は 1 週間以内には避難所に到着しない」、「水道は断水しない」、「自分の家は倒壊しない」、「火災で自分の家に住めなくなる」、「避難所の運営を手伝うことになる」、「携帯電話は充電できる」に関して、「そう思う」: 4 から「そう思わない」: 1 までの 4 件法で尋ねた。

結 果

回収した 232 票のうち、東北地方太平洋沖地震による揺れを経験しなかった 22 票を除いた 210 票(有効回答率 82%, 男性 83 名、女性 127 名、平均年齢 20.7 歳)を分析対象とした。東日本大震災発生当日の経験別に将来震度 6 強の地震が発生した場合のイメージについて t 検定を行った(Table 1)ところ、東日本大震災の発生した日に自宅にいなかった人よりもいた人の方が、同様に当日中に帰宅できなかった人よりも帰宅できた人の方が、同様に当日中にメールや SNS で家族や友人と連絡がとれなかった人よりもとれた人の方が、同様に震災発生後しばらくの間、お店で必要なものを買えなかった人よりも買った人の方が、それぞれ楽観的な傾向を示した。また、電話で家族や友人と連絡がとれた人はとれなかった人よりも楽観視する傾向がみられたが、鉄道の復旧についての本研究は平成 25 年度昭和女子大学学長裁量研究費の助成を受けた。

Table 1 東日本大震災発生当日の経験の違いによる将来発生する震災に対するイメージの差異(t 検定)

東日本大震災の地震が発生した時には自宅にいたか	自宅にいなかった			自宅にいた		
	n	M	SD	n	M	SD
震度6強の地震が起きた場合、鉄道の復旧には1週間以上かかる	124	2.7	.85	86	2.5	.85*
震度6強の地震が起きてても、停電は起きない	124	1.4	.57	86	1.5	.61*
家から交通機関を使って2時間以上かかる場所にいるときに震度6強の地震が起きた場合、無理に帰宅せず、近くの避難所へ避難する	124	3.4	.74	86	3.1	.87*
震度6強の地震が起きたとき、配給の非常食は1週間以内には避難所に到着しない	124	2.3	.71	86	2.1	.70*
震度6強の地震が起きたとき、配給の飲料水は1週間以内には避難所に到着しない	124	2.3	.71	86	2.0	.64*
東日本大震災の地震発生後に自宅が停電したか	停電しなかった			停電した		
震度6強の地震が起きた場合、鉄道の復旧には1カ月以上かかる	182	2.3	.88	28	2.0	.84*
東日本大震災発生当日中に帰宅できたか	帰宅できた			帰宅できなかった		
震度6強の地震が起きてても自分はケガをしない	185	2.1	.83	25	1.7	.74*
震度6強の地震が起きてても、配給の飲料水は3日以内には避難所に到着する	185	2.6	.84	25	2.2	.87*
震度6強の地震が起きてても、停電は起きない	185	1.4	.61	25	1.2	.41*
震度6強の地震が起きてても、ツイッターは使える	185	2.4	.83	25	2.0	.89*
東日本大震災発生当日にはメールで家族や友人と連絡がとれたか	連絡がとれなかった			連絡がとれた		
震度6強の地震が起きてても自分はケガをしない	87	1.9	.86	123	2.2	.79*
震度6強の地震が起きてても、配給の非常食は3日以内には避難所に到着する	87	2.2	.87	123	2.5	.74**
震度6強の地震が起きてても、配給の飲料水は3日以内には避難所に到着する	87	2.3	.91	123	2.6	.78*
出先で震度6強の地震が起きた時、近くに自動販売機があれば飲み物を買うことができる	87	2.0	.90	123	2.3	.91*
出先で震度6強の地震が起きた時、近くにコンビニエンスストアやスーパーがあれば食料を買うことができる	87	1.9	.75	123	2.2	.78*
震度6強の地震が起きた場合、コンビニエンスストアやスーパーは翌日も営業している	87	1.6	.77	123	1.8	.73*
震度6強の地震が起きた場合、鉄道の復旧には2日以内には復旧する	87	1.7	.67	123	1.9	.83*
震度6強の地震が起きた場合、鉄道の復旧には1カ月以上かかる	87	2.4	.89	123	2.1	.86*
震度6強の地震が起きてても、ツイッターは使える	87	2.2	.85	123	2.5	.83*
震度6強の地震が起きた場合、避難所の運営を手伝うことになる	87	3.0	.83	123	2.7	.75*
東日本大震災発生当日には電話で家族や友人と連絡がとれたか	連絡がとれなかった			連絡がとれた		
震度6強の地震が起きてても、配給の飲料水は3日以内には避難所に到着する	115	2.4	.86	95	2.6	.83*
出先で震度6強の地震が起きた時、近くに自動販売機があれば飲み物を買うことができる	115	2.1	.89	95	2.3	.93*
震度6強の地震が起きた場合、鉄道の復旧には1週間以上かかる	115	2.5	.84	95	2.7	.86*
震度6強の地震が起きた場合、火災で自分の家に住めなくなる	115	2.3	.66	95	2.2	.62*
東日本大震災発生当日にはSNSで家族や友人と連絡がとれたか	連絡がとれなかった			連絡がとれた		
震度6強の地震が起きてても、配給の飲料水は3日以内には避難所に到着する	156	2.4	.84	54	2.7	.85*
出先で震度6強の地震が起きた時、近くにコンビニエンスストアやスーパーがあれば食料を買うことができる	156	2.0	.75	54	2.2	.82*
震度6強の地震が起きた場合、鉄道の復旧には1週間以上かかる	156	2.7	.85	54	2.4	.86*
震度6強の地震が起きてても、ツイッターは使える	156	2.3	.83	54	2.6	.83**
震度6強の地震が起きたとき、配給の非常食は1週間以内には避難所に到着しない	156	2.3	.71	54	2.0	.67**
震度6強の地震が起きたとき、配給の飲料水は1週間以内には避難所に到着しない	156	2.2	.70	54	1.9	.63*
震度6強の地震が起きた場合、火災で自分の家に住めなくなる	156	2.3	.65	54	2.1	.62*
東日本大震災発生当日には地震後に食料や飲み物を買ったか	買わなかった			買った		
震度6強の地震が起きてても、停電は起きない	145	1.5	.61	65	1.3	.52*
震度6強の地震が起きてても、配給の非常食は1週間以内には避難所に到着しない	145	2.3	.72	65	2.1	.68*
震度6強の地震が起きた場合、火災で自分の家に住めなくなる	145	2.2	.63	65	2.4	.68*
東日本大震災からしばらくの間、お店で必要なものを買えたか	買わなかった			買った		
震度6強の地震が起きてても自分はケガをしない	166	2.1	.84	44	1.9	.77*
震度6強の地震が起きてても、配給の飲料水は3日以内には避難所に到着する	166	2.6	.83	44	2.3	.90*
震度6強の地震が起きてても、水道は断水しない	166	1.8	.79	44	1.4	.59**
震度6強の地震が起きた場合、携帯電話は充電できる	166	1.8	.77	44	1.4	.63**

注1) **: $p < .01$, *: $p < .05$, +: $p < .10$

注2) 選択肢: そう思わない: 1 ~ そう思う: 4

み悲観視する傾向がみられた。さらに、自宅が停電した人はしなかった人よりも鉄道の復旧に関して楽観的な傾向があり、食料や飲み物を買わなかった人は買った人よりも自宅の停電と自分の家の火災について楽観視する傾向がみられた。

考 察

全てではないが、総じて東日本大震災の発生時に困難な状況を経験した人よりも経験しなかった人の方が将来の震災で発生する状況を楽観視していると解釈でき、東日本大震災発生時の経験が影響を与えていると考えられる。また、平均値は低いが地震で停電する可能性に気づかず自販機で飲み物を買おうとする傾向も存在し、特にメールや電話や SNS 等で家族や友人と連絡がとれた経験のある人の方が楽観的であった。今後は、東日本大震災時の経験による影響を取り除き、震災への備えを促進させる方法を検討していく必要がある。

引用文献

警視庁大震災対策委員会・警視庁警備心理学研究会 (2006). 大震災対策のための心理学的調査研究—災害時における市民等の地域別意識調査—
警視庁警備心理学研究会 (2012). 首都直下地震発生時における都民等の意識調査